

・小学校5年生の時、テレビなどで震災報道があったのを思い出しました。水や食べ物不足していたことや、建物がほとんど流されたことは知っていましたが、細かいエピソードや被災者の方の心境など、ニュースでは流れなかった部分を知ることができました。

小学校6年生の子供たちが、電柱に上って降りられなくなった男の人に一晚中呼びかけたという話には、本当に感動しました。他にも小学生が駐車場の中で暖を取っているおじいちゃん・おばあちゃんを、校内へ避難させようと背中を押したりなど、小学生・中学生・高校生達が活躍したのを聞いて、本当にすごいな、尊敬する、と思いました。もし私達が同じ状況になった時、同じように動けるのかと考えると、今のままでは無理だと思いました。自分の食料・飲み物がないことを嘆いたり、家族を亡くして人を助ける余裕がなくなるだろうと思いました。でも、この話を聞いて人のために行動できるようになりたいと思いました。今までで一番響いた講演会でした。

・私は何度も東日本大震災のことをテレビや学校の授業で学んでいました。でも今回の講演は、今まで知っていたことよりもっと現実的に感じられました。

自分が防災担当している学校に行くまでの間の長田さんのことを考えると、とても心が痛みました。実際に経験されている長田さんは、私が感じたよりもっと深く心が痛まれていると思うと、苦しくなります。

今日の話の中で私が一番驚いたことは、小学生・中学生・高校生が自分のふるさとのためにと、主体的に積極的に活動していたことです。彼らは、学んだばかりの知恵を使ったりみんなで協力したりして、お年寄りなどを助けていることを知りました。私と同じくらいの高校生が保健室を病院にしたり、炊き出しをしたりしたことに驚き、感動しました。自分の家族や友人など大切な人が亡くなったり行方不明になっているかもしれない状況で、人のために働けるというのは、本当にすごいことだと思いました。今回の講演を聞いて、私は人のために何かを積極的にできる人になりたいなと思いました。

・…私に被災地の小学生のように冷静に強い判断ができるかと考えると、とても胸が苦しくなりました。一人でも多くの人を、自分たちの力で助けようとする一人一人の思いが大切だと分かりました。自分の命を犠牲にしても、周りの人達を優先して助ける姿、とても勇気のいることだと思います。

今、教室にいますが、この黒板がはがれ落ちる強さの波が、町も人も全て飲み込んでいくと考えると、とても怖いです。考えただけでも怖いのに、実際その場にいたら、年下の子供や高齢者を支えられるだろうか、すばやい判断ができるだろうか。大変なときこそ大切なのは思いやり、諦めない心だと知ることができました。

「誰かの笑顔に貢献できる自分を実感する」「自分の役割を見つける人になろう」この講演を通して、このように自分自身、精神的にも成長でき、考え方が変わったように思います。これからも、「生きられなかった方の分も、私が命を大切に生きていこう」くらいの強い気持ちと感謝を忘れず、後の世代にも伝え続けていこうと思いました。



4月21日(金)、「震災に学ぶ」と題した国立教育政策研究所の長田徹先生の生徒対象の講演会の感想です。

当時、出身地の宮城県の教育委員会におられた先生が遭遇した東日本大震災の猛威と惨状、その中で日々の学びで培った「生きる力」を最大限に発揮して周囲の人々に手をさしのべ、共に「前」を向いて生きようとする子供たちの姿。

先生の口から語られる言葉が体育館に集まった全校生徒の心にしみ込み、彼らの頭が活発に動くのが手に取るように感じられました。

5月17日(水)。1年生がコミュニケーションントレーナーの西田弘次先生の「What's Communication？」と題されたワークショップ型の授業を受けました。

3年連続の西田先生の指導。今年は先生からの提案で、まだお話を聞いたことがない1年生に絞り、1クラスずつ体を動かしながらコミュニケーションの基礎を学びました。



先生の指導が生徒達のコミュニケーションに対する「心」と「体」をいかに変化させたか。それが窺える感想を紹介します。

・とても楽しい授業でした。始めは何をするのか。誰が来ているのかよく分かっておらず少し不安だったけど、西田先生のとても明るい授業を聞いているうちに、楽しくなってきました。

AとBで目をつぶって倒れるゲーム(?)では、「あまり話したことがないけど仲良くなりたい」と思っていた人と、このゲームを通して仲良くなれました。とても嬉しかったです。話しかける勇気が少しなかったけど、先生の「大切なのは言葉以外の方」という話を聞いて、なんだか少し楽に考えられるようになりました。

今回の授業でとても大切なことを知ることができたような気がします。とても楽しく貴重な時間だったと思います。今回の授業で学んだことを、日常生活で生かしていけたらいいなと思います。

・…人の目を見ることがとても大変でした。…今まで散々学校などで言われてきたことを、(授業で)実際にやってみるなんてことがなかったので、今回はとても楽しく面白かったです。頭では分かっていたとしても、実際にはやれなくなっているもので、今一度ちゃんとしていきたいなと思っています。…

・…想像以上に面白かったし楽しかった。西田先生は最初の一声から印象がものすごくよくて、その一声で「この先生の話なら、50分が短いだろうな」と思ったが、実際そうだった。

お話の中に受信力・発進力という言葉があったが、自分は受信力の方ではできていると思った。発進力は、時々人見知りが発生してしまうから自分から一言かけるのは勇気があるけど、先生のおかげで自信がついたから、今後積極的に話しかけてみようと思った。また話さなくても、言葉以外の態度だったり姿勢だったりはその人の印象を変えるものだと分かったから、初対面の人と会うときなどは、言葉以外を意識して、よい印象を与えられるようにしたい。

今日の講演は本当によい経験となった。これから自分のためになることを、体を使って学べて楽しかった。西田先生には感謝したい。先生のような人間になりたいと思った。

・今まで自分が考えていたことが、ガラリとくつがえされるような講演会でした。先生の話にもあったように、やはり姿勢をよくしているだけで、自信があって前向きな印象に見えたのですごいなと思いました。

目を合わせたり、相づちを打ったり、笑顔で話を聞くのは必要だ、重要だと思う

けれど(これまで実行できていなかったが、今回)、実際に行動に移すと、今までと違う感じで話を聞くことができました。とても不思議な感じでしたが、こっちの方がより相手の話を聞いているという感覚で、この1時間を過ごすことができました。

最後の方で行った、(二人組になり、一人が目をつぶって後ろに倒れて、もう一人が支える)ゲームも、見えない分怖かったし、人に任せて倒れるのも怖かったですが、その人と話す方法の違いで怖さが変化することを、身をもって感じ取れたのもよかったです。

「つしょうレインボー・プロジェクト」の取組の一環でお招きした、長田先生と西田先生のお話の概要と、それを聞いた生徒の様子的一端を感想で紹介しました。

お二人以外にも、一学期当初からここまで、生徒達は様々な外部講師のお話を聞いています。それらは、西田先生の言葉を借りれば、生徒達の「受信力」が高められる機会になったはずです。それらから受信した学びが、日々の授業等の学校生活での学びと重なって、生徒一人一人の「発信力」として発揮される機会が、この後立て続けにあります。その内容は、次号以降でお伝えするつもりですが、その中で全校生徒が関わる取組は、7月14日(金)に行われる音楽祭です。

「クラスの親睦・友情の深化」「社会的な公共心の育成」と並び、今年の音楽祭では、レインボー・プロジェクトで育てる7つの力のうち、「アイディア力とチームワーク力を重点的に身に付けること」を目的として実施します。

全学年4クラスで発表数が12チームに減った分、アイディア力を発揮して、チームワーク力を高めるための新たな企画が、音楽祭実行委員会を中心に進行しているとのこと。どんな新生音楽祭になるのか、今から楽しみです。

平成29年6月23日